

**地道な活動にはいつも敬服ですね**

●太平山謙信平に中島綽軒の案内板を設置！

先ほど久喜麗和会の前会長・奥貫和夫様(11回卒)から次のようなメールをいただきました。

◇ ◇

香田様。残暑お見舞い申し上げます。猛暑の中のご活躍そして素敵な喫茶去いつもありがとう。[中略]

昨年久喜訪問や今年の野田市のコウノトリありがとうございました。何のお礼も出来ませんでした。がご縁がありますので、情報を一つ提供します。私が提案者で会員と進めてきた案内板設置が久喜・中島敦の会や久喜市・栃木市その他関係者のご協力で栃木市太平山謙信平の風致地区に建つ中島綽軒 遺愛碑隣に五年越しでこの夏やっと建立出来ました。中島敦の祖父中島撫山の長男が中島綽軒(13代)です。栃木市で塾を開き多くの門弟を育て亀田鵬斎・中島撫山の学問と生き方を踏襲した人物です。この記事が新聞に掲載されましたので添付します。2回に分けて送信します。◇ ◇

**案内板設立の経過** K.oku

2012 以前から資料により謙信平に顕彰碑があることが分かっていたが、有三の碑に比べ長く見づからなかった。この頃より栃木市・久喜市で資料収集 明誼学舎と碑の存在と碑文(漢文)のみは後日入手。

2012 5/31 レク兼ねて訪問数回、妻と公園を探そうちやっと出会った！

2012 6/9 西公事業で訪問、押山Gから有三も素読に通ったと。ピン！

2013 9/27 有三は綽軒の塾に通った。沢山の資料提供の「山本有三ふるさと記念館」有澤会長にお礼の訪問と見学 読売新聞に掲載さる。

2014 久喜市観光ボラG会長に推される。この頃より久喜・中島敦の会として両市・関係者へ働きかけと折衝が続く。9/23 横浜文学館にて村山早大名譽教授に碑文の訳文解説等依頼。11/18 栃木市案内20名

2018 6/20 雨の中、案内板 建つ (写真は下野新聞江戸記者提供 大塚幸一山本有三の会々長も参加)

2018 5/20 久喜中島敦の会総会で細案承認。6/23 案内板建立除幕式行う。

◆案内板設立の経過 K.oku

◇2012 以前から資料により謙信平に顕彰碑があることが分かっていたが、有三の碑に比べ長く見づからなかった。この頃より栃木市・久喜市で資料収集 明誼学舎と碑の存在と碑文(漢文)のみは後日入手。

◇2012 5/31 レク兼ねて訪問数回、妻と公園を探そうちやっと出会った！

◇2012 6/9 西公事業で訪問、押山Gから有三も素読に通ったと。ピン！

◇2013 9/27 有三は綽軒の塾に通った。沢山の資料提供の「山本有三ふるさと記念館」有澤会長にお礼の訪問と見学 読売新聞に掲載さる。

◇2014 久喜市観光ボラG会長に推される。この頃より久喜・中島敦の会として両市・関係者へ働きかけと折衝が続く。9/23 横浜文学館にて村山早大名譽教授に碑文の訳文解説等依頼。11/18 栃木市案内20名

◇2018 5/20 久喜中島敦の会総会で細案承認。6/23 案内板建立除幕式行う。

**有三の碑に案内板を設置**  
埼玉・久喜の顕彰団体

案内板は、久喜市市立公園「中島敦の会」の管理下で設置された。案内板には、中島敦の生誕地である久喜市と、祖父中島撫山の生誕地である栃木市との関係が記されている。また、中島敦の業績や、その祖父中島撫山の業績についても詳しく紹介されている。

久喜市市立公園「中島敦の会」の管理下で設置された案内板。案内板には、中島敦の生誕地である久喜市と、祖父中島撫山の生誕地である栃木市との関係が記されている。また、中島敦の業績や、その祖父中島撫山の業績についても詳しく紹介されている。

下野新聞 6月22日号

**中島綽軒通じ交流を**  
久喜出身 栃木に案内板設置

久喜市出身の中島敦が、祖父中島撫山の生誕地である栃木市に案内板を設置した。案内板には、中島敦の生誕地である久喜市と、祖父中島撫山の生誕地である栃木市との関係が記されている。また、中島敦の業績や、その祖父中島撫山の業績についても詳しく紹介されている。

埼玉新聞 8月21日

綿軒中島先生遺愛碑  
綿軒中島先生遺愛碑  
中島増次郎 号は綿軒(嘉永五年一八五二、明治三十九年九〇六、二十九歳の時現在の栃木市入舟町(横山資料館裏大目尊隣)に私塾「明誼学舎」を開き和漢の古典を教授した。学徳ともに高く、学舎は大いに栄え門弟は延べ三千人。当時栃木の有力者は皆ここで学んだ。高等小学生の山本有三も四書など素読している。開塾は父撫山と親交のあった当時の栃木戸長高田俊貞の招きによる。

綿軒は明治三十九年病の爲惜しまれつつ世を去るが、同四十五年門人たちは師の徳を永く伝えたくこの碑を建てた。撰文は次弟の端、書は三弟の疎。父は江戸の文人亀田鵬斎の学統を継ぐ久喜の漢学者中島撫山。作家中島敦は甥にあたる。(碑文は早大名譽教授村山吉廣先生の現代語訳等参照)

名勝地謙信平の碑が訪問者に両市の文化交流のシンボルとして語り継がれることを願う。

平成三十年(二〇一八)六月吉日  
設置者 久喜・中島敦の会  
協力 埼玉県久喜市

建立された案内板に刻まれた案内文

◇ ◇ 「山月記」「李陵」などの作品を残した作家・中島敦が久喜で暮らしたのは2歳から6歳までの約5年間でしたが、「久喜・中島敦の会」が創設されてから15年近くが経つようです。久喜市は、敦の祖父で漢学者の中島撫山(ぶざん)が暮らした町。中島敦にゆかりのある場所に案内板を設置したり奥貫様たちの地道な活動には敬服いたします。さすが「郷土の歴史文化を大切にすまち」ですね。